ISSN 0582−4478

京都大学附属図書館報

静備

1979年5月

Vol. 16, No. 1

The Kyoto University Library Bulletin

アメリカにおける外国法ならびに国際法集書の発展と利用——比較研究——

国際法律図書館協会会長　I. I. カヴァス教授

今から話しますテーマは私が目下研究中のもので，アメリカにおける比較法をはじめとする国際的法研究の可能性及び方法論についてであります。

過去30年間にわたり，ほぼ10年毎にアメリカ国際法協会，これは国際問題に関するアメリカ全国で最も権威ある学術組織ですが，この協会がアメリカにおける国際的法研究の状態について調査してきました。(この国際的法研究という言葉には，狭義の国際法，外国法さらに比較法などの研究が含まれます。)（内訳者注）この調査は厳密な意味での国際法だけでなく，広義の国際法及び渉外的なものを含み，その中には商取引に関する国際取り決め・広義の比較法・外国法も含まれています。この調査は広範囲にわたるものでしたので，学術的にも価値ある情報が集められました。この調査結果が以後の法律教育や研究の発展に大きな影響を与えたことは疑いありません。

一番新しい調査は1974年に行われたもので，これはマイケル・カードーゾ教授によって行われました。カードーゾ教授は経験豊かな法律教師として，また国際法教授であり，更に権威あるアメリカ法律学校協会の前執行委員長として多大の信頼を集めている方で，調査を行うには理想的な人と申せましょう。この調査の結論として教授は，「国際法の研究・訓練は順調に進んでいる。」と報告しています。調査の結果は以下のとおりです。

アメリカの学者・学生共に国際法及び関連分野に健全かつ旺盛な興味を示しており，法学部に設けられた国際法及び関連科目数も前回の調査結果を上回っており，これらを履習する学生数も増えている。また，出版された研究書数も前回を上回っている。法律学校協会の認可を得ている指導的な法律学校150校のうち140校が回答をよせている。それによると，国際的法に関する科目数は517にも達しており，それには，空法・海洋法・国際機関法が含まれている。多くの学校では同時に5科目を設けており，なかには10科目を設けているところもある。ますます多くの学生がアメリカ国際法協会の援助を受けて国際的法の研究に従事している。20種以上の学生の編集する法律雑誌が新たに加わったが，その中にはヴァージニア大学国際法雑誌やパーデュー大学国際法雑誌がある。

このようにアメリカにおける国際的法研究に対する関心が深まったことを教授が1974年に見い出されたとしても（国際活動が激増している今日の時代の趨勢を思えば）（内訳者注）さして意外なことではありません。アメリカは時折孤立主義の傾向を示すこ

ともありますが，実際は複雑な国際的な問題にまきこまれており，過去30年間のアメリカの立法は大部分国際的問題に深く関係しており，国際問題が国内問題をひき起したり，又国際問題が国内問題に優先したことさえあります。過去100年間にわたって結ばれたのと同数，あるいはそれ以上の国際協定が現在では1年の内に結ばれます。このような国際協定が認めるおびただしい量の権利や義務を秩序づけることは容易なことではありません。さらに追い討ちをかけるように無数といってよいほどの政府の行政機関が対外的活動にむけて政令・訓令・行政指導要項などをつくり出すので，混乱は深まる一方です。国際法の様相が一変したことは疑いもありません。厖大な数の国家公務員が，その多くは法律家なのですが，現在政府の行っている様々な国際的活動に従事しています。その中には関税や国境の管理のような伝統的なものや，国家間の防衛協定の実践や対外援助という新しい活動もあります。増大する一方の国際的活動にまきこまれているのはアメリカのみではありません。他の国々も同様であります。新しく独立する国が増えるにしたがって国際協定や国際的活動にむける国内法や政令が増えます。その上，直接に国際的活動に従事する人の数も増大します。話しております今でも，ソロモン諸島が独立しようとしております。更に次のことが付け加えられねばなりません。即ち，急増する国際的組織の規則や規定，そこで働く国際的公務員などです。

ところで国際的協定の大部分は制限を加えるものや財政に関するものです。従って国際的取引に対する国家の介入は増大します。民間に任すべき分野に対する国家の干渉に対抗するためには，専門家の手引きや助言が必要となります。従って依頼者の利益を護るために国際協定に精通した特殊な法律専門家グループが出現しました。それに伴い，国際法や渉外的問題についての書籍やルーズリーフ・サービスなどの情報資料が出版されるようになりました。このような情況のもとでは，国際的法研究はますます深められてむしろ当然と言えましょう。

カードーゾ教授の報告や国際的法研究の必要や進展について述べた他の論文で，意外に思えることは次のことです。国際的法研究がなされるためには資料がなくしては不可能だという当然の事実が，どこにも述べられていないことです。国際法・比較法の研究のために十分な図書資料が必要だということは明らかですのに，奇妙にも大部分の学術論文では無視されています。カードーゾ教授も国際的法研究に関する組織機関は，学者達に，この分野の研究者や教育者となることを奨励し，又，国際的法研究の教育課程を充実させる様努めなければならないということしか述べていません。使用できる資料蔵書が整えられなければそのような努力も無駄になるということはどこにも述べられていません。

前述しましたようなことが原因となって，国際的法研究の分野における情報活動は爆発的に増大しています。しかし，その情報の重要性は一時的なもので，すぐに陳腐化してしまいます。30年前でしたら，ノウ・ハウと財源さえあれば，外国法や国際法の立派なコレクションを作り上げることは比較的容易でした。法律の増加程度も変化もたかが知れていたからです。しかし今日では非常に困難です。

頻繁に行われる法改正により図書は急速に時代遅れとなり，陳腐化し価値を失います。この事態の証明は，人目につかない片隅に見捨てられて，ほこりのたまった古ぼけた本です。利用範囲が限られるため実質上無価値となった古い本をかかえこんでいる図書館があります。法律家は最新の知識を必要とします。従って普通の法律家は古い図書を必要としません。事実，近代的技術が国際的法研究の資料の開発に用いられるようになりました。今日的な資料を必要とする図書館は，財源の限られている場合，最新の情報を把握するためルーズリーフ・サービスや逐次刊行物・news letterなどの出版情報にたよる必要があります。法律家には時代遅れの多くの本よりも，最新の本少しの方が重要なのです。

大学に国際的法研究の科目を設ける場合，必要とする研究資料の収集・維持に要する費用を割り

出してそれに合せて科目が用意されるべきです。しかしこの手順はとられていないようです。この原因として，今までの調査報告がこの点を強調しなかったからでしょう。なぜ強調しなかったのかは不思議で説明がつきません。調査を行った研究者自身が研究資料の不足に不満を抱いているにちがいありません。もしかすると，資料不足をあたりまえと思うようになったのかもしれません。

この17年間に，国際的法研究に関する蔵書の調査が3回なされました。1961・1973・1976〜77の各年で，最後のは未集計です。第1回は21の，第2回は32，第3回は44の図書館が国際的法研究に必要な資料の収集に意欲をもった図書館として調査対象になりました。それによりますと，その蔵書は限られた分野に偏っており，しばしば不満足な資料しか備わっていないと言われています。アメリカにおける外国法・国際法の蔵書をもつ図書館は，法律協会会員名簿による統計によりますと，1200の法律図書館があり，それが実質上アメリカにおける法律図書館の全部だと申せましょう。法律図書館とは，政府図書館・裁判所図書館・弁護士会図書館・民間の法律事務所の図書館・法律学校の図書館です。10万冊以上の蔵書をもつ大型・中型図書館は100館あり，50万冊以上のは7館で，そのうち5館は，コロンビア・ハーバード・ミシガン・ニューヨーク・エール大学の法律学校図書館で，他はロスアンジェルス公共図書館と国会図書館で，100万冊をはるかに上回る蔵書を持っています。西ドイツのマックス・プランク研究所のように外国法・国際法専門の図書館はありません。つまり国内法図書館に所属しているわけです。地図を見れば分るように，外国法・国際法の資料を多く持った図書館は，狭い地域に集中しています。即ち，ボストン〜ワシントンの東海岸，シカゴ〜ミシガン（アンアーバー）の五大湖周辺，カリフォルニア海岸の3地域に限られています。ミネアポリス・マイアミ・テキサス州のオースティン・シアトルにも少しあります。3地域以外には国際法研究の研究能力をもつ図書館は極めてわずかです。実際，アメリカの渉外的・国際的法律活動は，ニューヨーク・ワシントン・カリフォルニア・シカゴ及びマイアミといった場所で独占的に行われているのです。

このように渉外的法律活動が数個所に集中しているときに，カードーゾ教授の勧告のように国際的法研究の講座を全国に拡げるということは無理ではないでしょうか。前にも述べましたように，1974年に140の法律学校で517の国際的法研究に関する科目が設置されており，アメリカ学者の国際的法研究に示す関心は高まりつづけています。このことは，定期刊行物目録を見れば分ることです。しかし何故科目を開設することが可能なのでしょう。それらのコースの大部分は入門的なもので，学生の読むのは英語による資料に限られている為と考えられます。その研究も東海岸や国外でなされた場合が大多数であります。対象もわずかの国を扱っています。

蔵書の内容ですが，これは国際法のものは比較的少なく，又，地理的に偏っていますので，外国法研究についてはかなり国差が生じております。イギリス・カナダ・オーストラリア・ドイツ・フランスについてはかなりのものがなされていますが，他の国については資料がほとんど揃っていません。日本もそうです。最新の調査によりましても，むらや不規則が見られます。ごく少数の図書館では海外出身の書誌に堪能な司書により資料の収集が集中的になされていますが，多くは研究者の時々の必要に応じた，ばらばらの収集で，なかには書架に並べんがためだけに集めているところもあります。もっとよいやり方があるはずです。国中の力をあわせて組織的になされるべきです。国際的法教授・研究のコースをもつ指導的な法律学校などが集って，維持すべき基本的・最低限度の基準を注意深く作る必要があります。このことによって，予算が限られているきびしい経済状態にマッチした収集ができると思われます。まだこのことに気づかれていないようですが，徐々に気づかれていくでしょう。

上記の記事は，昨年9月8日薬学部記念講堂で行われた近畿地区国公立大学図書館協議会主催による講演会の記録である。

外国図書大型コレクションについて

このたび，文部省より昭和53年度の全国共同利用外国図書購入費の配分を受け，下記資料を購入いたしました。

ついては，学内・外の研究者の共同利用に供するため，これらは，附属図書館とセンターに蔵置していますので，御利用くださるよう御紹介いたします。

"Archivio storico italiano"

Giovan Pietro Vieusseux (1779-1863) はフィレンツェの学識ある書籍業者で，すでに19世紀初期から学術雑誌出版の経験もあって当時のフィレンツェの出版界ではかなり有力な人であったようである。折しもリソルジメント運動のもり上った最中で彼は祖国愛と学術研究への情熱をいだいて1841年には"イタリア史未刊行資料とイタリア史関係の貴重な文献を収録すること"に重点をおいて，史学雑誌の編集を企画した。幸い当時の優秀な政治家であり歴史家でもあった Gino Capponi (1792-1876) の協力を得て特に中世史に関する文献を主体に編集して1842年に"Archivio storico italiano"の創刊号を刊行することが出来た。そして彼の史料編纂に打込む熱意に誘われて当時のヨーロッパの一流学者達の寄稿も多くなってきた。1855年以後はニューシリーズとしてその内容も：歴史的資料，個人的記録，書評，ビブリオグラフィー，と云うようにより充実した構成になって編集方針にも一段と発展を示してきた。

1864年に G. P. Vieusseux が他界してからは R. Deputazione di storia patria per le provincie della Toscana, dell' Umbria e delle Marche, (現在は Deputazione toscana di storia patria) の機関誌となった。そして1925年以来本誌にふさわしく書誌学的知識をそなえることによって高評のフィレンツェの出版社Olschki社で発行，現在に至っている。(途中1940～43年はフィレンツェの Bibliopolis 社で発行) こうして実に百数十年にわたる永い刊行歴を持ってその伝統を維持しているが，その間たえず各時代の著名な史学者，文学者，政治家による論文を発表してきた。寄稿者の名を部分的に思い出してみても Michele Amari, Alessandro D' Ancona, Cesare Cantù, Gino Capponi, Niccolò Tommaseo 等である。多くの歴史的新学説と輝かしい業績をもってイタリア史学研究に貢献することの絶大な本誌はこの分野の学術雑誌中最も権威あるものと評価されている。なお1842年から1941年までに刊行した資料の総索引全3巻が1947年に出版され非常に便利である。

今回の購入は創刊号 (1842年) から1977年までのいわゆるバックナンバーで附属図書館に備付けるが，以後は文学部で購入している。本誌はイタリア史研究者のみならずヨーロッパ史特に中世史の研究は欠かすことの出来ない基本的資料であって，経済史，法制史，文化史の文献も網羅しているので広範囲の研究者に裨益し得ることを期待している。

Verhandlungen des Deutschen Reichstages 1867-1933

(ドイツ帝国議会議事録. 1867-1933)

統一国家建設からナチス政権成立までのドイツ帝国議会議事録であり，第二帝政にはじまり第一次大戦を経て，ワイマール体制の成立と崩壊に至るドイツ近代史の動きを伝える基本的な一次資料である。

近年，ドイツ近・現代史の研究にはいちぢるし

い伸展がみとめられ，その結果，従来の見解にさまざまな角度から再検討が加えられている。ことにナチズムの特性と背景をめぐっては，コミンテルン・テーゼ，全体主義論的把握にあきたらず，ドイツ史の具体的状況に即して，きめのこまかい論争が展開されており，それにともなってワイマール期，帝政期に関しても新たな研究が蓄積されつつある。本資料は，もとより，ドイツ近・現代史を研究する上での基礎的な資料であるが，ひろく近・現代世界の政治状況，なかんずく，革命と反革命，議会制，大衆運動，政党制を研究する上でも，有益な資料である。

La collection des Procès-verbaux de l'Assemblées nationales de 1789 à 1813, 332 vols.（フランス国会議事録）

1789年の制憲議会以来，フランスの議会は，それぞれ自らの議事録を編集し，国立印刷局で印刷・公刊した。本コレクションは，制憲議会から帝政期の立法院までの各議会の公式議事録の édition originale を収集したものである。議事録の内容は，制憲議会28巻（公式議事録の作成は1789年6月17日以後であるが，同年12月10日法によって，5月5日の三部会召集から国民議会成立までの経過についても104頁にまとめて第1巻のはじめに収録してある），立法議会16巻，国民公会72巻，Directoire 期（総裁政府期）の五百人院48巻（第42巻のみ欠），Consulat 期（統領政府期）から帝政期の立法院49巻（1799-1813.12.29まで），Tribunat 61巻（1799-1807.9.18まで）である。なお，このコレクションには，国民公会議員で最初の archiviste de la République に任命され，革命期の貴重かつぼう大な文書の収集・整理に尽力した Armand-Gaston Camus の指導の下に，共和歴7年（1798-99）から1811年にかけて作成・出版された Table des matiéres, des noms de lieux et des noms de personnes. 計17巻（1巻約600頁，ただし，国民公会期の table は，当時 table manuscrite のままで印刷されていなかったため，ここには収められていない。）が含まれている。この Table は，1789年から1808年に至る期間の各議事録に収録された事項・人名に関する詳細な索引であり，研究にとって極めて有用な手引きとなるものである。

このコレクションは，革命から帝政期の当時に出版された初版本であり，その後に出版された各種の texts, documents, collections の底本となったものというばかりでなく，また，たとえば革命史研究に不可欠な資料とされる Le Moniteur に再録されていないパリ各セクションの請願書や建白書などをも含んでおり，フランス革命史研究の最も重要な一次資料として誠に貴重なものといえよう。

Государственная Дума 1906-1917
（マイクロ・フィッシュ）

（ロシア帝国議会議事録．1906-1917）

帝政ロシアの国会（ドゥーマ）は，第一次ロシア革命期（1905-1907）の1906年に立憲君主制への移行を目指して創設された代議制立法機構である。1917年2月革命の最中，勅令によって中絶され，以後再び召集されることはなかったが，その後の諸事件に対して影響を及ぼし続けた。十月革命によって成立した人民委員会議（大臣会議）の法令（1917年12月）によって廃止されるまで形式上存続した。

この間，第1国会（1会期），第2国会（1会期），第3国会（5会期），第4国会（5会期）が召集され，速記録が残された。

これらの国会は，この時期のロシアにおける諸階級，諸階層の勢力関係や利害関係を反映し，諸党派の合法的争闘の場となった。

速記録は，十月革命に至る激動期のロシアの社会政治状況を研究する上での不可欠な第一次資料である。

Irish University Press 1000Vol.-Ser. of British Parliamentary Papers, 1801-1899（ブルー・ブック IUPシリーズ）

英国の議会資料のなかで，19世紀以降とりわけ広く学術研究に利用され，その資料的価値が高く評価されているものに，議会の討議内容を収録した「ハンサードの議会議事録」（Hansard's Parliamentary Debates）と，議会の活動に関して院の内外から提示された「ブルー・ブック」と呼ばれる資料がある。このブルー・ブックスには産業革命の影響，政治組織の改革，奴隷制度の廃止，植民地問題をはじめ19世紀英国の躍動の全過程が反映されており，文字通り資料の宝庫である。

「ブルー・ブックＩＵＰシリーズ」は，これらブルー・ブックスの尨大な原資料のうち主要な社会・政治的資料を1,000巻にまとめ，それらを項目ごとに年代別配列で分類・整理した覆刻版である。

項目別分類は，他の類似シリーズにはみられない本シリーズの重要な特色であり，「索引」を含む31の大項目，更に必要によっては小項目が与えられて計81の項目からなっている。これらの項目は，19世紀のトピカルな問題の一覧表であると同時に，都市問題，福祉，公害，人口問題，運輸・通信，発展途上国等今日的関心からしても看過できないものが多い。収録されている資料には議会とりわけ庶民院の委員会，特別委員会の報告書をはじめ，王立委員会報告書，政府省立委員会報告を含む各種の政府報告，諸統計類のほか，海外出先公官との往復書簡集も含まれている。また，当時の各種問題に関するW.E.グラッドストーン，J.ベンサム，J.S.ミル，R.オーエン，T.R.マルサス等当時一流の政治家，学者の見解とならんで各層の証言録も収録されており，当時の世論の包括的な横断面を知ることもできる。

本シリーズが「過去」よりも「現代」に関心を持つものにとっても貴重な価値を持つものであることは，20世紀の多くの問題が19世紀に根源をもつこと，そして19世紀における大変革がとりわけ英国と密接に関係していたことからして，おのずから明らかであろう。

なお，本シリーズの利用に関しては，"Check List of British Parliamentary Papers in the IUP 1000Vol.-Ser., 1801-1899"および"Subject Set: Indexes and Commentaies"がある。

台湾国立中央図書館善本コレクション

（マイクロフィルム-ポジー）

台湾国立中央図書館の善本コレクションは世界最大の規模を有する。このコレクションは従来閲覧が大変困難で，その所在は知られていても，実際に研究に利用されることはなかったものである。今回購入されたものはその一部である。

本資料集の大部分は，もと清朝の宮廷図書館に秘蔵されていたもので，宋代129部，金代6部，元代153部の貴重な古版本を中心に，明清時代の刊本，写本78部を収録している。その内容は哲学，思想，歴史，語学，文学等中国学の全域にわたるものであり，現在，わが国にはほとんど所蔵されていない典籍を精選したもので，とりわけ重要なものばかりである。

VI. EUROPEAN HISTORY

Bill, Alfred Hoyt.
The campaign of Princeton, 1776–1777. 1975. (6-8.B25)

Dull, Jonathan R., 1942–
The French Navy and American independence: a study of arms and diplomacy, 1774–1787. c1975. (6-8.D6)

Wilson, Woodrow.
The papers of Woodrow Wilson. Arthur S. Link, editor. v.20, 21: 1975, 1976 (6-8.W12)

VIII. ARTS & INDUSTRIES

Weitzmann, Kurt.
The Monastery of Saint Catherine at Mount Sinai. v.1: From the sixth to the tenth century. 1976. (8-1.W32)

I. PHILOSOPHY

Poster, Mark.
Existential Marxism in postwar France; from Sartre to Althusser. 1975. (1-0.P8)

II. SOCIAL SCIENCES

Argyris, Chris; & Schön, Donald A
Theory in practice; increasing professional effectiveness. San Francisco, Jossey-Bass Pub., 1976. (2-0.A24)

Bozeman, Adda B
Conflict in Africa; concepts and realities. 1976. (2-0.B57)

Form, William H
Blue-collar stratification; autowokers in four countries. 1976. (2-0.F25)

Smith, Macklin.
Prudentius' Psychomachia; a reexamination. 1976. (2-1.S111)

Falk, Richard A　ed.
The Vietnam war and international law. v.4: The concluding phase. 1976. (2-5.F17)

Hull, Roger H
The Irish triangle; conflict in Northern Ireland. 1976. (2-6.H53)

McPherson, James M
The abolitionist legacy: from reconstruction to the NAACP. (2-6.M90)

European peasants and their markets: essays in agrarian economic history, ed. by William N. Parker and Eric L. Jones. 1975. (2-7.E32)

Kyle, John F
The balance of payments in a monetary economy. 1976. (Irving Fisher award series) (2-7.K63)

Marsh, Robert M　; & Mannari, Hirosi.
Modernization and the Japanese factory. 1976. (2-7.M100)

Clausewitz, Carl von.
On war, ed. and tr. by Michael Howard and Peter Paret. 1976. (2-9.C13)

IV. LITERATURE

Rabkin, Eric S
The fantastic in literature. 1976. (4-1.R11)

Fox, Susan.
Poetic form in Blake's Milton. 1976. (4-2.F45)

MacCaffrey, Isabel Gamble.
Spenser's allegory; the anatomy of imagination. 1976. (4-2.M129)

Seidel, Michael.
Epic geography; James Joyce's Ulysses. 1976. (4-2.S213)

Weinberg, Kurt.
The figure of Faust in Valéry and Goethe; an exegesis of Mon Faust. 1976. (4-4.W12)

V. HISTORY

Order and innovation in the Middle Ages; essays in honor of Joseph R. Strayer, ed. by William C. Jordan, Bruce McNab, Teofilo F. Ruiz. 1976. (5-1.01)

Griffin, Patricia E
The Chinese communist treatment of counter-revolutionaries: 1924–1949. 1976. (5-7.G8)

VI. EUROPEAN HISTORY

Sablinsky, Walter.
The road to Bloody Sunday; Father Gapon and the St. Petersburg Massacre of 1905. 1976. (6-3.S8)

薬学部図書室

薬学部は昭和14年の医学部薬学科設置に始まり，昭和35年に薬学部として独立している。また昭和37年の火災で学部建築物の大部分が焼失してしまうと言う不幸な歴史を背負い，この時に資料室の貴重な文献類も失われたことは大きな痛手であった。昭和41年には多方面の援助で記念講堂が建てられ，その一階が現在の図書室に当てられた。

学部構成員は教官55名（講座数13），その他の職員32名，専門課程以上の学生，大学院生265名となっている。図書室職員は定員3名と定員外職員1名。図書室面積は書庫を含めて240㎡と小規模である。

図書室再建当時から利用度の高い雑誌と，その10年間のバック・ナンバーの収集を計ることが決定されており，文献複写，相互利用等もこの雑誌が主たる対象になっている。日本薬学図書館協議会に発足時から加盟しており，学内外を問わず，開かれたサービスを実行している点に最大の特徴がある。文献複写も受付館になっており，昭和53年の調査では学内14,145件，学外1,575件を処理している。和雑誌158種，外国雑誌139種，本草関係の特殊コレクション等の複写依頼が中心である。

“Pharmaceutical Sciences”と呼ばれる薬学研究とは“医薬品に関する諸科学”であり，その研究領域は多様化の一途を辿っている。情報量の極端に多い“化学”を中心にした分野であるだけにChemical Abstractsは不可欠の二次資料となっている。生物学，医学，物理学等との関連も深く，Current Conttents等の援用が無ければ十分

に研究動向を把握していくことが困難な研究部門ばかりである。学際領域の進展に伴って新しい学協会誌が増加しているが，この新規購入によって従来不可欠なものとして購入していたJonrnalさえ継続購入ができなくなる場合が生ずる。薬学部は薬学系の大学，研究機関と相互協力の一環として雑誌の所蔵を調整する等の努力を早くから手がけている。したがって，購入雑誌のタイトルは十分調整をされているにもかかわらず厳しい状況が生じているのは資料の単価が他の分野よりも高いことも大きな理由となっている。

図書館の近代化と言う点については情報量の問題，検索の困難さを身をもって感じている研究者自身の深刻な問題となっており，特に機械検索を実現させようという気運が盛り上っている。

昭和54年12月からJICSTのオンライン情報検索が可能となる予定である。図書室としては未知の分野であるだけに，やゝ緊張して事態の推移を見守っているところである。

京都大学附属図書館報「静脩」Vol.16, No.1（通号64号）1979年5月31日 発行・編集：静脩編集委員会（責任者附属図書館事務部長）発行：京都大学附属図書館・京都市左京区吉田本町・電大代751—2111（内線）2611～2641